

株式会社中北製作所

2024年度環境経営レポート

(対象期間：2024年6月～2025年5月)



エコアクション21

認証番号 0007707



作成日： 2025年 8月28日

更新日： 2025年 10月3日

会社概要①

会社名	株式会社中北製作所
代表者	代表取締役社長 宮田彰久 取締役執行役員 中尾敏昭
所在地	本社工場 大阪府大東市深野南町1-1 東京営業所 東京都港区海岸3-18-1 東京サービス 東京都江戸川区中央3-6-14 北九州営業所 福岡県北九州市小倉北区浅野2-11-15
創立	1930年5月28日
資本金	11億5千万円
売上高(連結)	238億円（第99期）
従業員数	本社507人 東京営業所・サービス23人 北九州営業所24人
床面積	本社41,000㎡ 東京営業所218.92㎡ 東京サービス158.3㎡ 北九州営業所171.60㎡
事業内容	各種バルブ及び遠隔操作装置の設計・ 製造並びに販売

会社概要②

**環境管理
責任者**

総務部長 林昌宏

担当者

総務課 福島恒太郎

連絡先

TEL 072-871-1331

FAX 072-871-1388

URL

<https://www.nakakita-s.co.jp/>

事業年度

6月～5月

認証登録

範囲

活動

本社工場、東京営業所、
東京サービス、北九州営業所
各種バルブ及び遠隔操作装置の設計・
製造並びに販売



ごあいさつ

我々、中北製作所は人類共通の課題である環境問題と前向きに向き合い、地域との共生を通じながら環境問題の改善に努め、当社の事業に関わる環境負荷の低減に向けた活動を実施し、未来に綺麗で住み良い地球を残すべく、地球環境の保全に貢献します。

環境経営方針

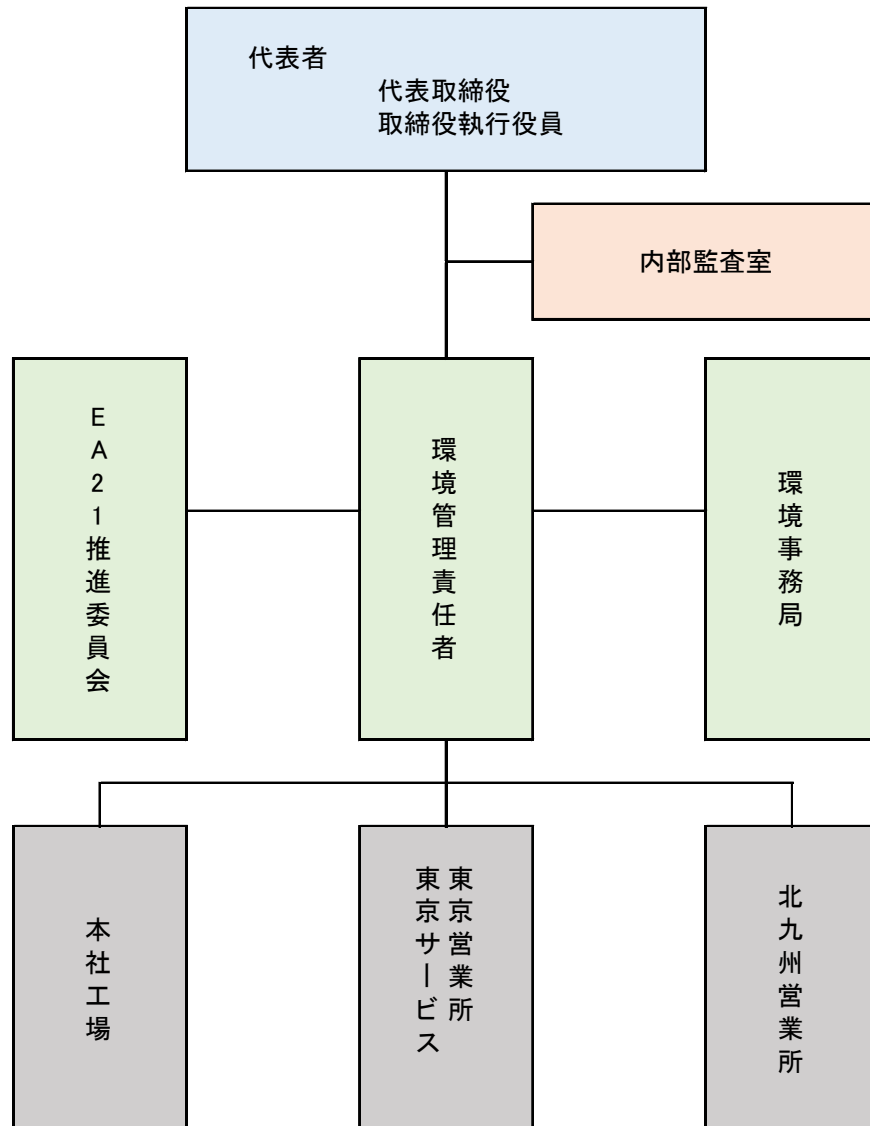
当社は、各種バルブ及び遠隔操作装置の設計・製造並びに販売とそのメンテナンスを主に行う企業として、企業活動の中で環境問題への取り組みが当社の業績を左右する重要な要素ととらえ、省資源・省エネルギーに自主的、積極的に取り組み、経済発展と環境保全の両立を図る社会的責任を認識し、社会に貢献する。

- 1, 関連する法令・規制要求事項ならびに顧客や市場など外部からの要求事項を順守する。
- 2, 環境と品質の複合マネジメントシステムを構築・運用し、その有効性の継続的な改善と環境汚染の予防に努める。
- 3, 重点施策
 - 1) 環境負荷低減の推進
 - ① 二酸化炭素排出量の削減 ② 廃棄物排出量の削減 ③ 水使用量の削減
 - 2) 化学物質使用量の削減
化学物質（SVHC）については、適切な把握・管理が求められていることから、仕入先からの化学物質含有情報入手に関する連携を密にし、化学物質の適切な把握・管理にも努力する。
 - 3) グリーン購入やグリーン調達
 - 4) 製品への環境配慮
 - 5) 社会、地域と共生
- 4, この環境経営方針は、社内全体に周知すると共に、環境経営レポートを公開する。

制定日：2011年2月4日
改定日：2025年8月28日

代表取締役社長 宮田彰久
取締役執行役員 中尾敏昭

対象範囲



対象活動

各種バルブ及び遠隔操作装置の設計・製造並びに販売。
下記に示す中北製作所の各種バルブ及び制御装置に係る
受注、設計、製造、検査、出荷に関連するプロセスに
適用する。

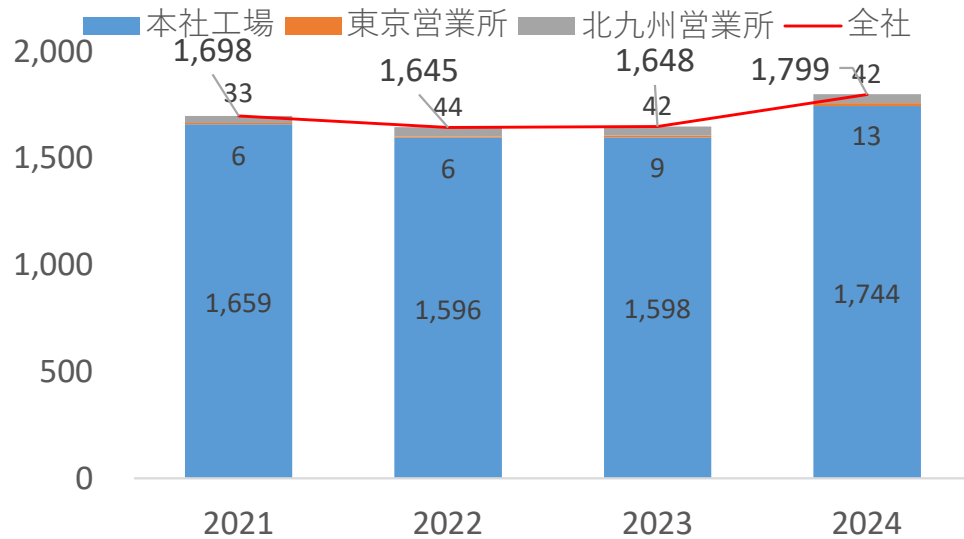
- ①バルブ ：調節弁・調整弁・シリンダ弁・電磁弁・
安全弁・電動弁、バタフライ弁・一般弁を含む各種バルブ
- ②計器・計装品 ：レベルスイッチ、コントローラ、
ツインパワーを含む関連機器
- ③遠隔操作装置 ：カーゴバルブ及びバラストバルブ用
操作盤、パワーユニット、油圧機器、遠隔液面指示計など
- ④その他の製品 ：レデューサ、ストレーナなど関連機器
- ⑤上記①～④に係る部品、ユニット又はそれらの組合せ品
- ⑥上記①～⑤に係る付帯サービス

役割・責任・権限

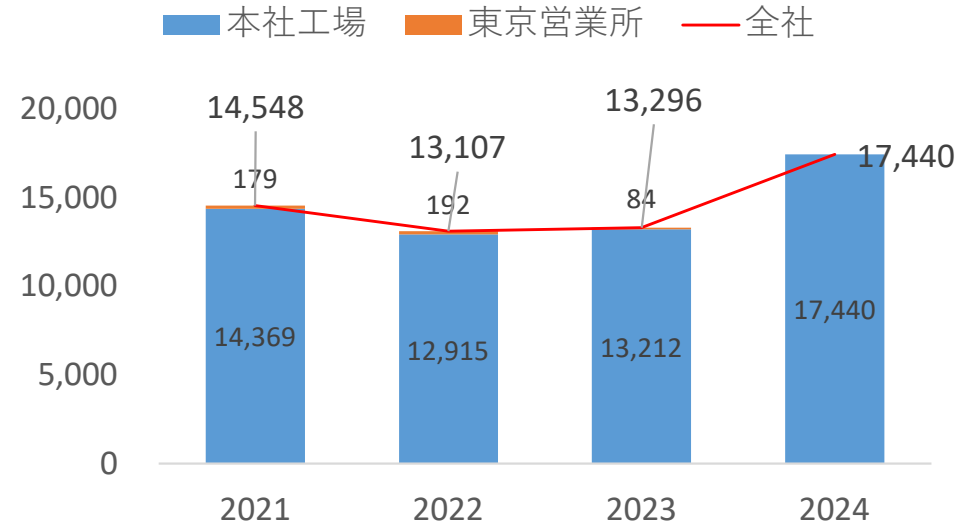
	役割・責任・権限		役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境管理責任者を任命 ・経営における課題とチャンスの明確化 ・環境経営方針の策定、見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し・指示を実施 ・環境経営レポートの承認 ・実施体制の構築 	環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・環境活動の取り組み結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
内部監査室	<ul style="list-style-type: none"> ・内部環境監査の実施 ・内部監査計画 ・前回審査のコメント確認 ・各部署環境経営計画の確認 	EA21推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・環境活動内容の検討 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・環境経営レポートへの活動報告の掲載原稿の提出 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理
所属長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防措置の実施 	全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開 ・内部環境監査の実施 		

主な環境負荷の実績

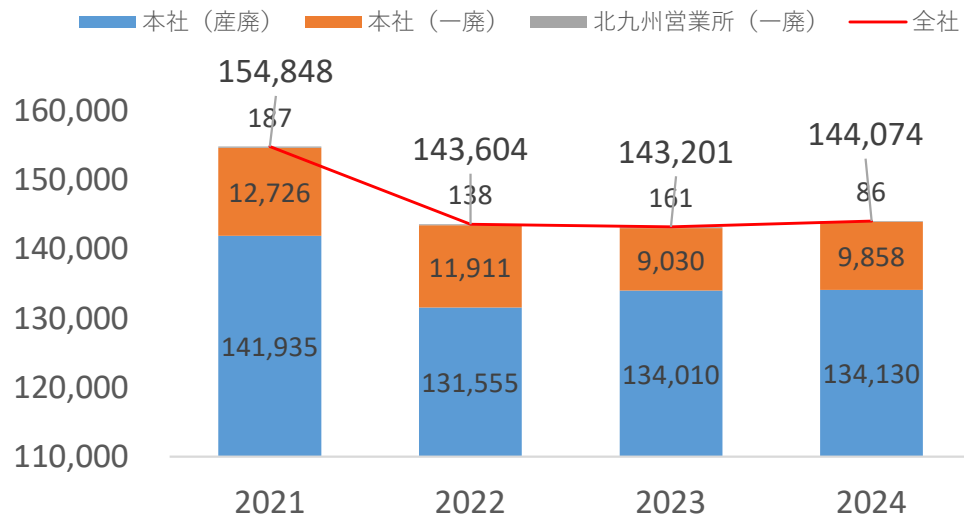
二酸化炭素総排出量(t-CO₂)



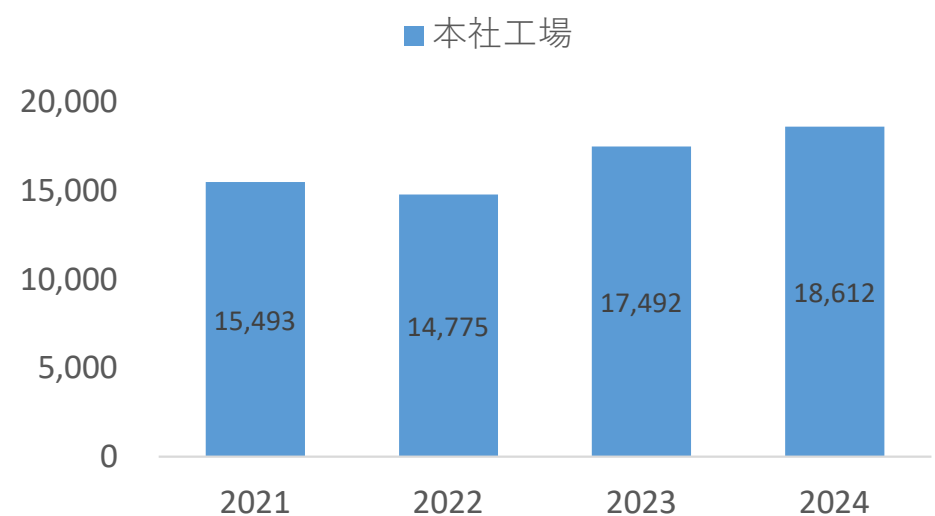
水使用量(m³)



廃棄物排出量(kg)



化学物質使用量(kg)



環境経営目標・実績①

全社

<div> <div>年 度</div> <div>項 目</div> </div>		基準値	2024年		2025年	2026年
			(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比	1,550,574	1,473,472 95%	1,516,196 98%	1,472,817 95%	1,457,312 94%
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比	90,472	93,078 103%	96,835 107%	92,755 103%	89,520 99%
灯油、L P G の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比	312,725	312,725 100%	186,262 60%	312,725 100%	312,725 100%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2 基準年比	1,953,771	1,879,275 96%	1,799,293 92%	1,878,297 96%	1,859,557 95%
一般廃棄物の削減 (可燃物を対象) ※再資源量を除く	kg 基準年比	13,369	9,250 69%	9,944 74%	9,382 70%	9,248 69%
産業廃棄物の削減	kg 基準年比	146,351	137,570 94%	134,130 92%	136,106 93%	134,643 92%
水道水の削減	m ³ 基準年比	20,807	17,686 85%	17,440 84%	17,478 84%	17,270 83%
化学物質の削減	kg 基準年比	19,324	17,585 91%	18,612 96%	18,358 95%	18,165 94%

環境経営目標・実績②

本社工場

<div> <div>年 度</div> <div>項 目</div> </div>		基準値 (基準年度)	2024年		2025年 (目標)	2026年 (目標)
			(目標)	(実績)		
電力の二酸化炭素排出量削減（排出係数：0.418）	kg-CO2 基準年比	1,530,670 (2017年度)	1,454,137 95%	1,490,490 97%	1,454,137 95%	1,438,830 94%
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比	58,264 (2017年度)	64,090 110%	66,950 115%	64,090 110%	61,177 105%
灯油、L P G の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比	312,725 (2017年度)	312,725 100%	186,262 60%	312,725 100%	312,725 100%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2 基準年比	1,901,659 (2017年度)	1,830,952 96%	1,743,702 92%	1,830,952 96%	1,812,732 95%
一般廃棄物の削減 (可燃物を対象) ※再資源量を除く	kg 基準年比	13,231 (2017年度)	9,129 69%	9,858 75%	9,262 70%	9,129 69%
産業廃棄物の削減	kg 基準年比	146,351 (2017年度)	137,570 94%	134,130 92%	136,106 93%	134,643 92%
水道水の削減	m ³ 基準年比	20,807 (2017年度)	17,686 85%	17,440 84%	17,478 84%	17,270 83%
化学物質の削減	kg 基準年比	19,324 (2017年度)	17,585 91%	18,612 96%	18,358 95%	18,165 94%
製品への環境配慮	製品の小型化・省資源化 自部署の整理整頓による作業の効率化 地域清掃・募金活動の社会貢献 客先の環境情報収集と社内への伝達 顧客向け講習会の開催 社内システムによる効率化 梱包方法の見直し					

環境経営目標・実績③

東京営業所

年 度 項 目		基準値 (基準度)	2024年		2025年 (目標)	2026年 (目標)
			(目標)	(実績)		
電力の二酸化炭素 排出量削減（排出 係数：0.462）	kg-CO2 基準年比	8,527 (2017年)	8,527 100%	13,351 157%	8,441 99%	8,356 98%
製品への環境配慮	納期の取り纏めによる輸送回数の削減 過剰梱包の抑制					

北九州営業所

年 度 項 目		基準値 (基準度)	2024年		2025年 (目標)	2026年 (目標)
			(目標)	(実績)		
電力の二酸化炭素 排出量削減（排出 係数：0.463）	kg-CO2 基準年比	11,377 (2022年)	10,808 95%	12,355 109%	10,239 90%	10,126 89%
自動車燃料の二酸 化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比	32,208 (2022年)	28,988 90%	29,885 93%	28,665 89%	28,343 88%
上記二酸化炭素排 出量合計	kg-CO2 基準年比	43,585 (2022年)	39,796 91%	42,240 97%	38,904 89%	38,469 88%
一般廃棄物の削減 ※再資源量を除く	kg 基準年比	138 (2022年)	121 88%	86 62%	120 87%	119 86%
購入資材への環境 配慮	グリーン購入 比率		33%	50%	34%	35%
製品への環境配慮	メンテナンスによる製品の長寿命化					

環境経営計画と結果及びその評価、次年度の取組内容①

【本社工場】

【結果】 ○：よくできた △：まあまあできた ×：できなかった

環境経営計画		結果	評価、次年度の取組内容
電力による二酸化炭素排出量の削減	数値目標	△	基準年 2.97kWh/万円 当年 2.64kWh/万円
昼休み等電気不要時の消灯		○	昨年に引き続き猛暑により夏場の使用量は増加傾向にあります。冬場は昨年同様目標達成が続き、全体としては目標から2ポイントオーバー。生産金額当たりの使用量は基準年より少ない結果となりました。次年度は蛍光灯をLED化し、電力削減を図ります。
夜間、休日はP C、プリンタの主電源オフ		○	
生産性向上による電力消費の削減		○	
クールビズ、ウォームビズ励行でエアコンの使用を抑える		△	
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減	数値目標	×	
急発進、急加速をしない		○	使用量が昨年から10%増加し、数値目標の達成が厳しい状況です。年度末に1台ガソリン車から電気自動車へ入れ替えを行いましたので、来期は削減に貢献できそうです。
アイドリングストップの励行		○	
社有車の入れ替え時には低燃費・省エネ対応の車を選定する		○	
目的地へ最短距離で走行		○	
一般廃棄物の削減	数値目標	×	
両面、集約、裏面コピーの活用		○	生産の増加に合わせ従業員の数も増えてきており、廃棄物の量もじわじわと増えてきています。再度、分別の徹底を意識付けしていけたらと思います。
使用済み封筒の再利用		○	
マイコップの推奨		○	
ゴミ分別の徹底		○	
産業廃棄物の削減	数値目標	○	
ウエス、軍手の節約		○	廃水処理に雨水が入らない様工程を改善したことにより、処理量が大幅に削減できました。来期は生産が増大し、廃棄物も多くなることが考えられるが、引き続き削減に努めます。
通いカゴの推奨		○	

環境経営計画と結果及びその評価、次年度の取組内容②

【本社工場】

【結果】○：よくできた △：まあまあできた ×：できなかった

環境経営計画		結果	評価、次年度の取組内容
水道水の削減	数値目標	○	
節水の心掛け		○	節水の心掛けは全社で意識できています。次年度はボイラーの蒸気漏れの改善を検討します。
化学物質の削減	数値目標	△	基準年 0.016kg/万円 当年 0.014kg/万円
使用済みシンナー再生の推進		○	適正使用を意識しつつも、生産量の増加に伴い使用量も増加しております。生産金額当りでは若干ですが基準年よりも少ない結果となりました。引き続き効率の良い化学物質の使用に努め、より安全な商品の選定を検討します。
化学物質のリスクアセスメントの推進		△	
シンナー等の節約		○	
製品への環境配慮	数値目標	—	
職場内の整理整頓による作業の効率化		—	引き続き各部署にて環境経営計画書を作成しており、それぞれにおける課題を挙げて環境活動を推進していきます。液化水素対応製品を普及していき脱炭素化へ貢献していきます。
展示会で環境配慮製品のアピールを行う		—	
製品の小型化・省資源化		—	
社会貢献	数値目標	—	
地域清掃の実施		○	地域清掃は地道に続けた結果、進んで参加してくれる方が増えた様に感じます。微力ではありますが、これからも地域社会へ貢献していけたらと思います。
自動販売機募金の実施		○	
赤十字やユニセフへの寄付		○	

環境経営計画と結果及びその評価、次年度の取組内容③

【東京営業所】

【結果】 ○：よくできた △：まあまあできた ×：できなかった

環境経営計画		結果	評価、次年度の取組内容
電力による二酸化炭素排出量の削減	数値目標	○	
・ 効率的な照明管理、不要箇所の電気の消灯。		○	フリーアドレスにより各個人がエアコンの風の当たり具合を考慮して座席を選ぶことが出来るようになり、全体のエアコンの稼働を省エネ化している。 また、窓際の各エアコンの個別調整により効率的な室温管理をしている。次年度においても、こまめな室温調整、ムダの無い効率的な照明心掛けたい。
・ 電化製品の省エネ化		○	
・ 夜間、休日のパソコン、プリンター主電源のOFFの徹底。		○	
・ ケルビズ、ウォームビズにより冷暖房の温度設定を抑える。		○	
・ 個別エアコンの活用により、効率の良い温度管理をする。		○	
一般廃棄物の削減	数値目標	—	
・ コピー機能の活用(両面、集約等の使用促進)。		○	各自がモニターを複数台活用しペーパーレス化が定着した。またDocuworksの使用が業務効率を上げた。加えて共有ファイルへの保存も定着している。次年度においても、文房具類の再利用、ペーパーレス化を二本柱に、一般廃棄物の削減と共に業務効率の向上に努めていきたい。
・ 共有ファイル等の更なる活用。		○	
・ 見積や会議資料等のデータによる回覧、及びDocuworksの活用によるペーパーレス化の促進。		○	
・ 不要紙、使用済み封筒の再利用。		○	
水道水の削減	数値目標	—	
・ 手洗い、洗い物、うがいにおいての節水。 ・ こまめに蛇口を閉め、水量を減らす工夫をする。		○	水回りは共用設備なので、数値では確認出来ないが、引き続き課員の節水意識は高く維持されていると考える。
購入資材への環境配慮（グリーン購入）	数値目標	○	
・ 可能な限りグリーン購入を実施する。 ・ 購入金額（母数）の削減に工夫及び努力する。		○	現在、購入先が複数に及びグリーン購入の全体金額が把握出来ないが、引き続き文房具の再利用や資材購入削減の意識を継続している。
製品・サービスへの環境配慮	数値目標	—	
		○	出荷業務が効率的であることが当然という意識になっている。コスト削減やCO2排出削減もまた当然のこととして意識している。引き続き、SDGsを念頭に梱包材の材質やその廃棄量にも配慮していきたい。

環境経営計画と結果及びその評価、次年度の取組内容④

【北九州営業所】

【結果】 ○：よくできた △：まあまあできた ×：できなかった

環境経営計画		結果	評価、次年度の取組内容
電力による二酸化炭素排出量の削減	数値目標	○	こまめな消灯は徹底できている。電灯の間引き、サーキュレーター活用も実施し冷暖房の使用率を低減。ただし、業務過多による残業時間は増加したため、電力消費は増大傾向。次年度は残業削減を重点項目とする。
昼休み等電気不要時の消灯		○	
夜間、休日はP C、プリンタの主電源オフ		○	
クールビズ、ウォームビズ励行でエアコンの使用を抑える		○	
残業削減による電力削減		△	
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減	数値目標	○	各項目を課員全員が意識することで燃費向上することで二酸化炭素排出量の削減を目指す。次年度も継続する。
速度制限の厳守		○	
急発進、急加速や空ふかしの排除		○	
駐停車でのエンジン停止を励行		○	
一般廃棄物の削減	数値目標	○	DWを使用し紙のプリントアウトは格段に減っている。また、可能な限り、PC内で処理をし、不必要なプリントアウトを削減する。FAXについてもPC内で処理できるようになり、削減できている。次年度も継続する。
両面、集約、裏面コピーの活用		○	
使用済み封筒の再利用		○	
社内LAN、データベースの利用による電子化		○	
ゴミ分別の徹底		○	
購入資材への環境配慮（グリーン購入）	数値目標	○	通期で目標値を達成できている。次年度も継続して削減率を見直し、達成できるよう注力する。
グリーン購入比率を高める		○	
出来るだけまとめて発注し、簡易梱包を選ぶ		○	
製品・サービスへの環境配慮	数値目標	○	客先の定期点検工事の実施有無で大きく左右されるが次年度は達成できるよう注力する。
メンテナンスを行い製品の寿命を延ばす		△	

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無①

【本社工場】

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物 産業廃棄物 特管廃棄物 中間処理施設（排水処理装置）
大東市火災予防条例	加熱炉
労働安全衛生法	クレーン ブラスト 電気炉 コンプレッサー 塗装ブース
クレーン等安全規則	簡易リフト
騒音規制法	空気圧縮機 集じん機 他
振動規制法	空気圧縮機 集じん機 他
化学物質排出把握管理促進法	エチルベンゼン トルエン キシレン
大阪府生活環境の保全等に関する条例	クレーン 研磨施設 集じん機 電気炉 溶剤洗浄施設 吹付塗装施設
大気汚染防止法	ボイラー 塗装ブース ショットブラスト
水質汚濁防止法	廃ガス洗浄施設
公害防止組織法	洗浄工場
フロン排出抑制法	空調 冷蔵庫 チラー（旋盤機械） エアドライヤー 冷水機
下水道法	廃ガス洗浄施設 表面処理施設
高圧ガス保安法	圧縮空気製造設備 窒素ガス製造設備
顧客要求事項	客先のグリーン調達情報等

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無②

【東京営業所】

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物
東京都環境基本条例	一般廃棄物
資源有効利用促進法	製品の長期間使用並びに再生資源・再生部品の利用促進
家電リサイクル法	冷蔵庫
小型家電リサイクル法	電子電気製品
顧客要求事項	客先のグリーン調達情報等

【北九州営業所】

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物
福岡県公害防止等生活環境の保全に関する条例	一般廃棄物
フロン排出抑制法	サーバー冷却機
資源有効利用促進法	製品の長期間使用並びに再生資源・再生部品の利用促進
家電リサイクル法	冷蔵庫
小型家電リサイクル法	電子電気製品
顧客要求事項	客先のグリーン調達情報等

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、関係当局よりの違反、訴訟等の指摘は、過去３年間ありませんでした。

代表者による全体の評価と見直し・指示

2024年度は、液化水素用の大口径バタフライバルブの製品化という大きなプロジェクトが実を結び、脱炭素社会への貢献が大きく前進した年でありました。また、バタフライバルブに続きグローブバルブについても液化水素に対応した製品を開発。アンモニア燃料供給システム用やメタノール燃料供給システム用のグローブバルブなども製品化しており、次世代船舶への対応によってカーボンニュートラルへ貢献してまいります。

今年度の実績としては、急激な受注高増加の解消のため残業や休日出勤が増えたことにより増加傾向ではありますが、原単位の評価では基準年より優れている項目も多く、環境に配慮したものづくり企業として今後も取り組んでまいりたいと思います。

設備面では、老朽化した空調設備の全社的な更新工事や、ガソリン車から電気自動車への切り替えを行いました。

次年度につきましても多くの受注を頂いている中で、効率の良い生産体制を確立し、環境負荷の低減に努めます。

令和7年8月28日
取締役執行役員 中尾敏昭

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
環境目標・計画	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
実施体制	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり

主な環境活動の紹介

	環境活動	SDGs
電力	クールビズ・ウォームビズの徹底	
	工程管理で効率よく作業を行い、ムダな電力の削減	  
	各種機械設備の定期点検で高効率な運転の維持管理	  
ガソリン	社用車の定期点検を確実にし、良好な燃費を維持	 
	自部署だけでなく外注業者・来客者へもエコドライブの協力依頼、パンフレットの掲示を行う	 
廃棄物	詰め替え可能な事務用品を推奨し、リユース促進	 
	納入業者に通い箱の協力依頼	 
	レンタルウエスの利用	 
水	節水の呼びかけ・掲示による励行	
	工場巡回時に水漏れがないか調査	
	水のろ過装置を使用し、機械の水交換回数を削減	

主な環境活動の紹介

	環境活動	SDGs
化学物質	化学物質の少ない製品を調べる。納入業者に提案頂く	  
	パーツクリーナーの過剰使用を控える	  
グリーン調達	グリーン調達ガイドラインの周知	 
	客先の環境経営に関する情報収集と社内への伝達	 
	エコマネジメントシステム取得業者からの優先調達	 
環境に配慮した製品づくり	新規製品の小型化や部品点数の削減による資源使用量の削減	 
	社内システムの改善により効率化を図る	
	5 S の徹底で作業効率・生産性を上げる	  
	外部とのメールの署名部分にEMS推奨の文言を入れる	 
	地域清掃や環境団体への募金で社会活動	  

環境活動紹介①



再資源化物置き場に
「リサイクルステーション」の看板を設置し、
リサイクルへの意識向上を図っています。



月に一度、最寄駅から会社までの通勤道路の
清掃活動を行っています。
自主参加ですが毎月たくさんの人が
参加しています。



社内に設置している自動販売機は、
売り上げの一部を募金団体へ寄付しています。

環境活動紹介②



環境配慮のポスターを実際に使用する場所に貼り、啓発。
(写真は紙コップ、エアコン温度設定のポスター)



消防訓練は消防署の協力を得て、通報、放水、消火器の訓練を行います。避難訓練は毎年違う部署で実施し、防災意識を高めています。

環境活動紹介③



定期的に各部署の過剰な在庫や不要な事務用品を回収し、再度要求時に配布することで無駄なく利用しています。



ウエスを洗濯して再利用するシステムを採用し、廃棄物の削減を図っています。



プリンターに認証システムを導入することでミспリントを防ぎ、複数の印刷物をまとめてプリントアウトできるので効率も良くなります。

環境活動紹介④



コンプレッサーやボイラー、ポンプは定期的に分解・清掃・整備することで予防保全、劣化による効率の低下を抑えています。



EXPO2025

2025大阪・関西万博にてSMART SHIP HUB DIGITAL PTE. LTD.との協業による海事DXがもたらす未来の船舶、SDGsをテーマとした展示、登壇を致しました。



大阪府大東市深野南町1-1

TEL 072-871-1331

FAX 072-871-1388